



株主の皆様へ
第**128**期 報告書

2023年4月1日 ▶▶ 2024年3月31日

A decorative graphic in the top right corner consisting of several overlapping squares in various shades of blue, ranging from light to dark, arranged in a roughly rectangular shape.

Heavy Duty Sacks

Flexible Containers

Plastic Film Products

A decorative graphic in the bottom left corner consisting of several overlapping squares in various shades of blue, ranging from light to dark, arranged in a roughly rectangular shape.

昭和パックス株式会社

売上数量が戻らない 今後も安定経営の

株主の皆様におかれましては、平素格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社グループ第128期（2023年4月1日～2024年3月31日）の事業概況のご報告にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

第128期の業績について

当社グループの第128期におきまして、当初は国内生産が進展することで当社の売上高が伸長すると見込んでおりましたが、想定以上に売上数量が回復しない厳しい状況が続きました。また主力商品である重包装袋については、当社が得意とする石油化学関連の需要回復が遅れております。

売上面では重包装袋部門は農水産物、プラスター、製粉用途の売上数量が増加、下期に入って合成樹脂が上向いたものの、化学薬品、砂糖用途が大幅に減少しました。子会社のタイ昭和パックス(株)

状況の中で純利益は増益を達成。 継続に努めてまいります。

は自動車産業の減産に伴い合成樹脂の売上数量が低調でしたが、足元の需要は回復しつつあります。フィルム部門の売上数量は農業用が前期の反動から下期に多少需要が戻りましたが、産業用は年間を通じて低調でした。コンテナ部門は物流全般の景気回復の遅れから、液体輸送用コンテナライナー「エスタック」を除いてふるいませんでした。利益面ではクラフト紙価格の高止まり、ポリエチレン樹脂の値上がりに加え、新基幹システムの導入に伴う減価償却費や保守費用の負担が増加したものの、価格改定に伴う採算の良化、原価の抑制、省エネの徹底、保有株の売却などが寄与し、親会社株主に帰属する当期純利益は増益となりました。

これらの結果、第128期の業績は、連結売上高21,651百万円（前期比625百万円減収）、営業利益1,021百万円（同94百万円減益）、経常利益1,248百万円（同101百万円減益）、親会社株主

に帰属する当期純利益は962百万円（同14百万円増益）となりました。

新中期経営計画の進捗状況

当社グループは2022年3月期より8年間の経営計画「PAXXS Vision-2030」をスタートさせました。2024年3月期は1st STAGEの2年目にあたり、当初の計画通り、開発体制、生産設備、人に対して積極的に投資を行い、企業運営基盤の整備と意識改革の推進を図りました。

この1年間、進捗が見られたものとしては、「ニーズをカタチに」のプロジェクトでお客様からご要望が多い環境対応型商品の開発があります。ひとつは加工食品用途として内容物の賞味期間を延ばすことでフードロスの減少につながる窒素置換包装と窒素充填装置の開発が最終段階に入っており、来期の受注が視野に入っています。

Top Interview

また防湿コート紙を使用した重包装用紙袋（クラフト紙袋）は、ポリエチレンフィルムからの材料変更により分別処理の必要性がなく、リサイクルが可能です。フィルム製品では、バイオマス原料を用いた商品開発を急いでおり、ご要望があり次第速やかに納品できるように備えています。

「仕事に自信を」のプロジェクトでは、工場の技術・技能の伝承と若手オペレーターの教育のため、製造工程や検査工程のマニュアルを動画に収録しています。すでに富山工場の印刷ラインが完了し、昨年末から亀山および盛岡工場への水平展開を行っております。これには教える方の社員の力量が上がるという相乗効果も生まれています。

労働環境改善の取り組み

当社ではかねてより社員からの要望や勤務実態を踏まえて、働き続けられる労働環境の改善に取り組んでいます。例えば、従来は1日単位の取得だった有給休暇を、半日単位で分割取得も可能とし、有給休暇をフレキシブルに使えるようにしています。また夫婦で同一工場に勤務している社員が転勤になった場合、配偶者から希望があれば

同じ工場に異動して働くこともできます。このほか2024年4月には亀山工場の食堂をカフェ風リニューアルしました。社員には大変好評で、社員同士のコミュニケーションにもよい影響を与えています。



リニューアルした亀山工場の食堂

株主の皆様へ

第128期は売上数量が戻らない厳しい状況が続きましたが、合成樹脂と精米業界のお客様の需要には底打ち感があり、好材料が散見されました。また営業以外で大幅に利益を出すことができました。第129期は営業関係も製造関係も節目の年と捉えております。中東情勢や為替の動き、原料価格の高騰など先行き不透明感があるものの、お客様のご要望に真摯に応えながら本業の営業利益を増やせるように取り組んでまいります。なお製造ラインの設備投資につきまして第129期にある程度目処がつくことから、その後新しい取り組みを進めてまいります。

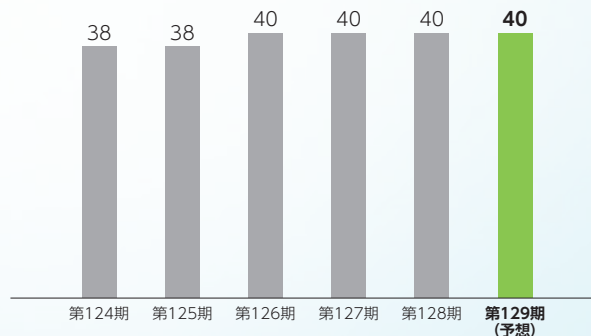
株主の皆様には何卒ご理解いただき、これからも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 小野寺 香一



1株当たり年間配当金の推移

(単位：円)



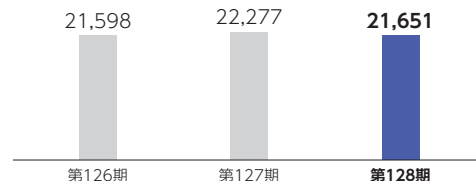
売上高

216億51百万円 (前年同期比 2.8%減)

▶ 売上高について

当社グループの主要事業は、国内の素材産業や農産物の生産動向に影響を受けやすい産業用包装資材の製造販売です。期初時点では感染懸念の後退、供給制約の緩和、インバウンドの回復により飛躍的な成長が期待されましたが、年度末時点では円安や物価高による個人消費の低迷を中心に内需の停滞が継続しており、経済の好循環とは言い難い状況となりました。当社グループの売上数量は前期比マイナスとなりました。連結売上高は前期比625百万円減の216億51百万円となりました。

売上高



営業利益

10億21百万円 (前年同期比 8.4%減)

経常利益

12億48百万円 (前年同期比 7.5%減)

親会社株主に帰属する 当期純利益

9億62百万円 (前年同期比 1.5%増)

▶ 利益について

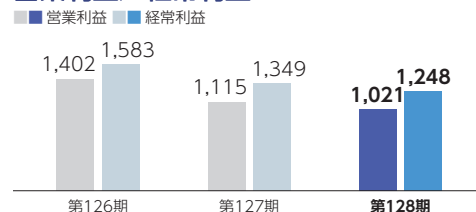
売上数量が想定以上に回復しない状況が続きましたが、製品価格改定による採算の良化、原価抑制および保有株の配当増加の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は増加しました。

▶ 来期業績予想について

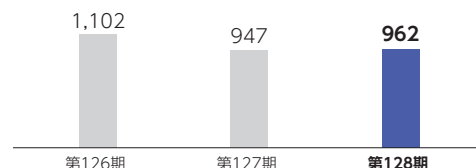
来期につきましては、売上数量を採算確保の上で回復していくことが急務となります。一方で賃上げ、投資設備完成による減価償却費およびメンテナンス費用などの負担が増加し、利益圧迫要因となることは避けられない見込みです。

当社グループの来期の業績は、売上高23,500百万円(伸長率+8.5%)、営業利益1,180百万円(伸長率+15.5%)、経常利益1,370百万円(伸長率+9.7%)、親会社株主に帰属する当期純利益1,130百万円(伸長率+17.4%)を見込みます。

営業利益／経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



総資産

333億16百万円

純資産

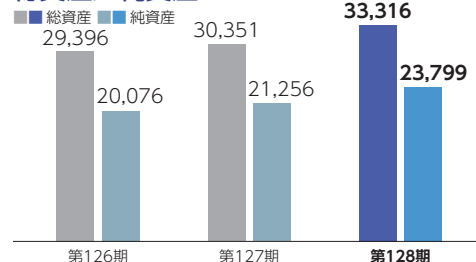
237億99百万円

▶ 資産について

総資産は前連結会計年度末に比べて2,965百万円増加しました。主な増加要因は現金及び預金295百万円、受取手形及び売掛金333百万円、電子記録債権163百万円、棚卸資産382百万円、投資有価証券1,419百万円および退職給付に係る資産609百万円です。

純資産合計は23,799百万円で、前連結会計年度末に比べて2,542百万円増加しています。主な増加要因は利益剰余金784百万円、その他有価証券評価差額金985百万円、為替換算調整勘定332百万円および退職給付に係る調整累計額456百万円です。

総資産／純資産



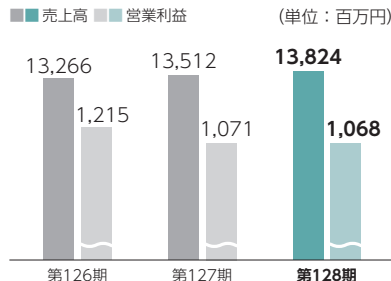
重包装袋



当社のクラフト紙袋の売上数量は前期比7.1%の減少でした。米麦用途は前期比微減に止まりましたが、シェア率の高い合成樹脂、化学薬品用途の需要回復の遅れが響き、業界全体より高い減少率となりました。

タイ昭和ボックス(株)のクラフト紙袋の売上数量は、一部の顧客に需要回復の傾向が見られるものの、他の主要顧客の減産、在庫調整の影響が残り、売上数量は前期と比べ11.8%の減少となりました。九州紙工(株)は米麦袋、一般袋ともに減少し売上数量は前期から12.8%減少しました。山陰製袋工業(株)は米麦袋は増加しましたが、主力の両底貼袋が減少し、売上数量は前期比3.7%の減少となりました。

重包装袋の主原材料であるクラフト紙の価格は、前年、原燃料費の急騰を理由に上昇し、現在も高止まりしています。

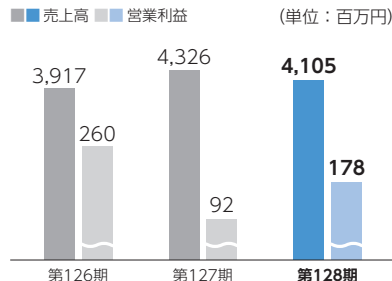


フィルム製品



当社のフィルム製品の売上数量は、前年の価格改定前の駆け込み需要の反動や物価高騰を背景とした買い控えの影響もあり、産業用、農業用とも前期比マイナス、合計では7.7%の減少となりました。産業用では、一般広幅フィルム、熱収縮フィルム「エスタイト」、農業用では、ハウスフィルム「バーナルハウス」、「農サクビ」、牧草ストレッチフィルムが大きく減少しました。

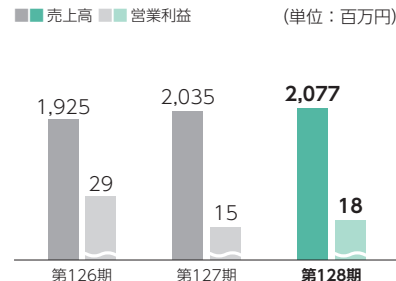
主原材料であるポリエチレン樹脂は原油、ナフサ価格の高騰および物流費など諸経費の上昇に加えて為替の影響により再び値上がり基調となっています。



コンテナ



当社のフレキシブルコンテナ「エルコン」の売上数量は、物流全般の景気回復の遅れにより前期比11.2%の減少でした。大型ドライコンテナ用インナーバッグ「バルコン」は前期比15.1%の減少、液体輸送用1,000ℓポリエチレンバッグ「エスキューブ」は前期から増加しました。



会社概要 (2024年3月31日現在)

- 設立
1935年12月20日
- 資本金
6億4,050万円
- 主要な事業内容
クラフト紙袋、樹脂袋、合成樹脂製品の製造販売および各種包装容器、包装材料、包装関係機械の製造販売
- 主要な事業所
本社 〒162-0845
東京都新宿区市谷本村町2番12号
電話 03(3269)5111
支店 大阪、西日本(山口)、中部(名古屋)、東北(仙台)
工場 東京(埼玉)、防府(山口)、富山、亀山(三重)、
盛岡(岩手)、掛川(静岡)
子会社 九州紙工(鹿児島)、ネスコ(東京)、
山陰製袋工業(島根)、山陰パック(島根)、
昭友商事(東京)、タイ昭和パックス(タイ王国)

当社の株式の状況 (2024年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 13,450,000株
- 発行済株式の総数 4,450,000株
- 株主数 1,183名
- 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社サンエー化研	846	19.1
新生紙パルプ商事株式会社	837	18.9
株式会社三菱UFJ銀行	135	3.0
INTERACTIVE BROKERS LLC	131	3.0
特種東海製紙株式会社	130	2.9
諸藤周平	107	2.4
株式会社みずほ銀行	80	1.8
農林中央金庫	75	1.7
株式会社鹿児島銀行	70	1.6
昭和パックス社員持株会	66	1.5

(注)持株比率は自己株式(9,961株)を控除して計算しております。

株主の皆さまの声を聞かせください

コエキク

当社は、株主の皆さまの声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ですが、アンケートへのご協力をお願いします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスキー入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。

<https://koekiku.jp>

アクセスキー 3954WTY6



スマートフォンから
カメラ機能でQRコードを読み取り

QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄給を贈呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社プロネクス社の提供する「コエキク」サービスにより実施いたします。https://www.pronexus.co.jp/
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」@koekiku@pronexus.co.jp

株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 毎年6月
- 期末配当金支払株主確定日 3月31日
- 中間配当金支払株主確定日 9月30日
- 基準日 定時株主総会については、3月31日。その他の定款に定めがある場合のほか、必要があるときはあらかじめ公告する一定の日。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社
本店証券代行部

お取扱窓口 お取引の証券会社等。特別口座管理の場合は、特別口座管理機関のお取扱店。

特別口座管理機関 お取引の証券会社等。特別口座管理の場合は、特別口座管理機関のお取扱店。
みずほ信託銀行
フリーダイヤル 0120-288-324
(土・日・祝日を除く9:00～17:00)

未払配当金のお支払 単元株式数 100株
みずほ信託銀行 本店および全国各支店
みずほ銀行 本店および全国各支店

公告方法 電子公告により、当社ホームページに掲載。

ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載。

役員 (取締役および監査役) (2024年6月27日現在)

代表取締役社長	小野寺香一	生産本部長
取締役	湯口毅	営業本部長
取締役	清水貴雄	管理本部長
取締役	多久秀臣	
取締役	花井謙介	
取締役	大館諭	
取締役	赤木鉄朗	
常勤監査役	上河義章	
監査役	井上眞樹夫	新生紙パルプ商事(株) 常勤監査役
監査役	佐藤誠一	(株)サンエー化研 常勤監査役

※大館諭氏および赤木鉄朗氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

※井上眞樹夫氏および佐藤誠一氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

